

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

二兎を狙い（1年生）、二兎を追い（2年生）、二兎を獲る（3年生）大阪で一番元気のある学校～希望進路の実現 100%と自主活動への取組み 100%～

- 1 第一希望の進路を一段高いレベルで実現できる確かな学力の養成
- 2 さまざまな自主活動を体験する中で、生徒ひとりひとりが授業にはない「自主活動における学びの魅力」を発見し、発信していける学校
- 3 グローバルな視点を持ち高い志を抱いて社会に貢献する人材の育成
- 4 芸能文化の学びの中で新たな自分を発見し、大阪の文化の発展に寄与できる人材の育成
- 5 中学生が“ヒガスミ”を体験・体感・実感し適切に進路選択できる広報の展開

2 中期的目標

1 第一希望の進路を一段高いレベルで実現できる確かな学力の養成

(1) 第一希望の進路を実現が叶うように、生徒が生き生きと授業に取り組む学校をめざす。

- ア 生徒が生き生きと授業に取り組む授業づくりのために、公開授業や研究授業、学校教育自己診断、授業アンケート等を効果的に活用する。
- イ 新学習指導要領を踏まえ、習熟度別授業、選択科目の充実を図る。
- ウ 学習習慣の確立のために、学校組織として年間を通じた自習室運営、長期休業中の勉強合宿の実施に取り組む。
- エ 家庭学習習慣の確立のために各教科が連携を取って課題を作成する。また、家庭学習計画を生徒に作成させる。

(2) 当たり前のことが当たり前にできる生徒を育成し、学力向上の土台作りをする。

- ア 遅刻を少なくするなど、学習の土台となる生活習慣の確立をはかる。
- イ 生徒が心身の健康を保ち学校生活を送れるよう、学校保健の取組みの充実を図る。

※ 生徒向け授業アンケートにおける生徒取組度（平成 25 年度アンケート 4 段階評価で 3.10）を平成 28 年 3.20 を目標とする。

2 さまざまな自主活動を体験する中で、生徒ひとりひとりが授業にはない「自主活動における学びの魅力」を発見し、発信していける学校

(1) 生徒会活動（行事）を充実する。

- ア 体育祭を本校生徒会における最大の行事として位置づけ、本校独自の「学年縦割り」と「応援」「アトラクション」「マスコット」「スタンド」の活動の中で上級生が下級生を指導する体制を維持し、よき伝統が継承されるようにする。
- イ 文化祭における 3 年生「コーラスコンクール」の継承とともに、1・2 年生の取組みの充実を図る。
- ウ 生徒が積極的にまた安全に部活動に取り組めるよう、指導者の確保や施設設備の整備等の環境整備に努める。

※ 生徒向け学校教育自己診断における学校満足度を 100%に近づける。

(2) 外部との連携とボランティア活動を充実する。

- ア チャリティーマラソンの実施（陸前高田高校とネパールへの支援）、異校種間の交流・連携、近隣の施設や地域の催しへの参加、クリーンアップキャンペーンなど、様々な外部との交流・連携事業やボランティア活動を積極的に推進する。

※ ヒガスミの行事への保護者の来場者・参加（平成 25 年度体育祭・文化祭 計 4,112 名）をさらに増やす。

3 グローバルな視点を持ち高い志を抱いて社会に貢献する人材の育成

(1) 他者への思いやりと貢献意欲を強く持ち、行動へ移すことのできる、国際社会で必要とされる人材を育成する。

- ア 海外から見た日本を知る機会や異文化を体験的に知る機会として、また、母語以外の言語によるコミュニケーションを体験する機会として、平成 26 年入学者から 3 年間台湾への修学旅行を実施することとし、3 年目にその検証を行う。
- イ 国際交流委員会を核として、生徒の海外研修を含め海外の学校との交流活動を推進する。英語に特化した研修と異文化体験を 1 年おきに行う。
- ウ 芸能文化科の生徒を中心に据えて、外国の生徒に日本の伝統的文化を体験してもらう機会を持つだけでなく、外国の教育関係者に日本（特に大阪）の伝統文化教育の意義と成果を積極的に発信する

※ 年間 5 回程度の海外交流を継続して実施する。（平成 25 年度 5 回）

- ウ 国際社会における意思疎通の手段の一つとして重要な位置を占める英語でのコミュニケーション能力を高めるため、授業・補習にとどまらず、朝の HR を利用した英単語テスト、英語の資格試験対応講習、T-NET を活用した様々な取組み等を積極的に推進する。

※ 生徒の英語の資格試験合格率（平成 25 年度 57%）を、平成 28 年度 70%を目標に上げる。

(2) 「総合的な学習の時間」と LHR 等を活用して「志学」の全学年実施を行うなど、キャリア教育と人権教育を一層推進する。

- ア 生徒のキャリア意識を高め第一希望の進路を明確にするために、大学教員による模擬授業を実施する。
- イ 生徒や保護者を対象とした府内外の大学見学会や大学説明会を実施する。
- ウ 生徒の自立的・自律的学習のための環境を整える。
- エ 外部機関を活用して効率的に情報収集、情報分析を行うとともに、志望校情報交換会などの取組みを行い、生徒支援のための情報共有を進める。
- オ 「志」において、プレゼンテーション、現役社会人の講義、社会の第一線で活躍する卒業生の職場訪問などを行い、社会人としての将来を思い描かせて高い志をもつ姿勢を身につけさせるとともに、自己の希望進路実現のためのロードマップを描かせる。
- カ 学力診断テストの結果分析会、志望校検討会を実施するなど指導方針の共通理解を形成しより効果的な進路指導を確立する。

※ 生徒の希望する進路の実現率（平成 24 年度 83%）をさらに上げ、平成 28 年度 90%をめざす。

4 芸能文化科の学びの中で新たな自分を発見し、大阪の文化の発展に寄与できる人材の育成

(1) 芸能文化科の取組を核として、国際社会において、日本の伝統や文化を積極的にかつ自信を持って発信し交流できる人材を育成する。

- ア 芸能文化科の専門科目の一層の充実を図るために、特別非常勤講師や大阪芸術大学、近畿大学等との連携を強化するとともに、新たな連携先を発掘していく。
- イ 様々なメディアを通じて、芸能文化科の教育内容や外部連携の内容が伝わるよう情報発信を行う。
- ウ 芸能文化科が長年に渡って行ってきた社会貢献により構築したネットワークを活用して、応援団的ネットワーク作りを推進する。

※ 年間を通じた大学教員による授業、外部との連携事業（平成 25 年度 5 事業）を維持拡充する。

5 中学生が“ヒガスミ”を体験・体感・実感し適切に進路選択できる広報の展開

- ア HP の充実やマスメディアの活用による広域的な広報活動を行い「入りたい学校」としての存在を示す。

イ 体育祭、文化祭チャリティーマラソンの一般公開、授業公開を行い、日頃協力いただいている地域の方々や本校への入学を希望する小中学生への情報発信をはかる。

- ウ 小高連携授業など和文化的の普及継承に取り組む。

エ 「学校説明会」において、模擬授業を行い本校の授業を体験する機会を提供するとともに、ICT 機器を活用した説明を行い、本校の学校生活活動を通じていかに生徒の自主性が養われ、その自主性が学習活動における頑張りにつながっているのかを積極的に発信する。

- オ 生徒と教職員が一丸となって学校説明会や中学校訪問等を行う。

※ 学校説明会への来場中学生数（平成 25 年 12 月末時点対募集人員比 3.1 倍）を増やす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><生徒>「命大切さ社会のルール」が-3ポイント、「いじめ」や「ネット」関係の課題が落ち着き重点的な取組を緩めたためと思われる。「校長先生の話は興味深い」-6ポイント、1年間読書の話ばかりしたためか。「施設設備の整備」-5ポイント、トイレとウォータークーラーが要因。ウォータークーラーはPTAから卒業記念品で贈呈予定。</p> <p><保護者>「施設設備の整備」-4ポイント、生徒の気持ちの反映であろう。「進路指導」+3ポイント、保護者懇談を全員2回行ったことと3年生の懇談でのPC活用力アップが要因であろう。</p> <p><教員>多くの項目で10ポイント以上昨年より高い。「特色と生徒ニーズ」100%は自己評価が高い。「教員間のコミュニケーション」+10ポイントは2年目にして朝の打ち合わせ会の効果が顕在化した。「思考力の養成」「教科における授業計画」の+10ポイントは、生徒アンケートの結果に正の相関。校長のリーダーシップが2年連続上昇。</p>	<p>第1回学校協議会7月25日(土) 特に意見なし</p> <p>第2回学校協議会11月23日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の前後に自学自習に取り組ませる工夫が必要。勉強しない生徒は強制されないと取り組まない。 <p>第3回学校協議会2月6日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学校からのプリントを保護者に渡さないことが多い。何か方策を考えてほしい。高校生なので、保護者に毎回メールで知らせるのは良くない。 ・生徒による授業アンケートの高い評価を維持してほしい。そのために、高い目標を掲げてよいのではないか。 ・トイレの改修は府内の公立小中学校では一定進んでいる。府立学校だけが計画的な改修が行われていない。財政難かもしれないが、府には財政措置をしてほしい。府高PTAからも要望しているが、現在の計画も平成27年度で終了と聞いている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 第一希望の進路を実現できる確かな学力の養成	<p>(1) 第一希望の進路を実現する授業づくり</p> <p>(2) 学力向上の土台となる心身の健康と生活習慣・学習習慣の確立</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の学ぶ意欲・態度の育成のために、授業の最初に授業態度と今日の授業内容の確認を行うとともに、授業の最後に今日のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が生き生きと授業に取り組む授業づくりのために、学校教育自己診断、授業アンケート等を効果的に活用する。 <p>イ・全教科で研究授業を行い、生徒が生き生きと学ぶ授業づくりに取り組む。</p> <p>(2)</p> <p>ア・S.H.R.を生活習慣、学習態度、違いを認め合える豊かな心の育成のための重要な時間と位置付け、学力向上の土台となる健康な心身と規律ある学校生活づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に複数回の保護者懇談及び随時の生徒面談、必要に応じた家庭訪問を行う。 ・生徒の課題を共有するために、定期考査期間や木曜放課後に学年団会議を行う。 <p>イ・携帯・スマホに依存しない学習を柱にした生活の確立に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担当者が連携を取って1週当たり10時間程度の家庭学習課題を出し、家庭学習計画を生徒に作成させて取り組ませる。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け授業アンケートにおける生徒取り組み度(平成26年度アンケート4段階評価で3.13)を向上させる。</p> <p>イ・ICTを活用した授業など、全教科で研究授業・研究協議を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・4年連続で減少した遅刻回数(H26年12月末時点:2644回)の維持とH26年度増加した欠席回数(4015)の5%削減。</p> <p>イ・2年生8月時点での授業外学習時間2時間以上の生徒を50%以上にする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け授業アンケートにおける生徒取り組み度。 第1回授業アンケート3.16 第2回授業アンケート3.30 ◎</p> <p>イ・ICTを活用した授業など、全教科で研究授業・研究協議を実施した。 ・化学、生物、英語、国語、体育でアクティブ・ラーニングを取り入れた授業とICTを活用した授業が増えている。 ◎</p> <p>(2)</p> <p>ア・前年比遅刻420減、欠席840減。過去5年で最少となった。 ・遅刻は、前期は前年比増であったが、10月から減少に転じた。自律的な生活習慣を養う粘り強い指導が実を結んだ。 ◎</p> <p>イ・自宅学習時間(自習室、講習・補習及び塾を除く) 平日2時間以上17.8% 休日2時間以上30.0% 指標は満たしていないが、2年生の平均自宅学習時間が4月よりも2分改善。府立高校では2年生の学習時間の増加は希なことと教育産業の担当者から評価されている。 △</p>
2 生徒ひとりひとりが授業にはない「自主活動における学びの魅力」を発見し、発信している学校	<p>(1) 自主活動の更なる充実</p> <p>(2) 外部との連携とボランティア活動の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・体育祭応援団の夜間校外活動の根絶を維持し、生徒に集中と切替の意識を徹底させるとともに、生徒会執行部、団活動(応援、アトラクション、マスコット、スタンプ)、体育祭実行委員会の活動を通じて、綿密な計画と準備過程の大切さを体感させる。</p> <p>イ・体育祭、文化祭の活動を様々な場面を通じて発信し、大勢の観客に来ていただくことによって、本校の自主活動のよさを理解していただくとともに生徒に成功体験をさせる。</p> <p>(2)</p> <p>ア・芸能文化科生徒及び部活動所属生徒による小学生との交流授業や老人介護施設訪問、チャリティーマラソン、小中学生対象理科実験教室、クリーンアップキャンペーン等を継続して行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断における体育祭・文化祭、学校行事の項目の肯定的回答(H26年度96%)を100%に近づける。</p> <p>イ・体育祭及び文化祭の来校者数(平成25年度4112名)を維持する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断におけるボランティアに関する項目の肯定的回答(平成26年度93%)を100%に近づける。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断の肯定的回答94%。 ・保護者の学校教育自己診断回答率が約30%から90%に改善。 ○</p> <p>イ・体育祭及び文化祭の来校者数 平成27年度4353名 ◎</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断の肯定的回答93%。更に向上を図りたい。 ○</p>
3 育成 グローバルな視点を持ち高い志を抱いて社会に貢献する人材の	<p>(1) 国際社会で必要とされるコミュニケーション能力と携帯・インターネットに関する人権意識の育成</p> <p>(2) 希望の進路を実現する進路指導の確立</p>	<p>(1)</p> <p>ア・国際社会(アジア)の現状を知るとともに、意思疎通の手段としての英語でのコミュニケーション能力を高める機会として、フィリピン・スタディーツアーを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語でのコミュニケーション能力を高めるため、朝のS.H.R.を利用した英単語テストや英語の資格試験対策講習を実施する。 <p>イ・携帯・インターネット使用上の人権啓発を含め、他人に優しく違いを尊重できる豊かな人間性の育成のために、講演会等の取組を進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・志望校情報交換会を前期・後期に開催して、生徒の志望校に関する情報を共有し、第一希望の進路実現を学校として支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府内の高校卒業生数が増加する中で現役での希望進路の実現に実績を向上させてきたこと及び今後更に大阪府内の高校卒業生数が増加することを踏まえ、希望進路の現役での実現と現役合格できなかった生徒が難関国公立大学に合格できる基礎学力の養成をめざす。 ・他府県で先進的な教育実践を行っている高等学校等へ教員を派遣し、持ち帰った資料を活用して校内研修を行う。 <p>イ・30時間学習マラソンと100時間学習マラソンの参加者を、事前審査の基準を落とさずに増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、部活動参加者や芸能文化科の生徒が自学自習の習慣を養える機会と場所を設ける。 	<p>(1)</p> <p>ア・英語の資格試験合格率(平成26年度57.3%)を向上させる。</p> <p>イ・携帯・インターネットに関する講演会の実施</p> <p>(2)</p> <p>ア・過去5年の実績と今後の高校卒業生数の動向を考慮し、下記の人数を目標とする。</p> <p><現役及び既卒> 難関国公立大学 1名 <現役> 国公立大学 13名 難関私立大学 80名 中堅私立大学 110名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他府県の高専等の訪問と伝達研修の実施 <p>イ・参加者(平成26年度48名)の1.5倍増を目標にする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・2級と準2級の合格率61.9%。 ・合格者数は2級(19名)と準2級(33名)とも倍増。 ○</p> <p>イ・携帯・インターネットに関する講演会の実施 トラブルといじめを中心に学年別に実施。 今年度は現時点で、ネット関連の生徒指導事象はない。 ○</p> <p>(2)</p> <p>ア・目標を大きく上回った。すべての評価指標で、データの残っている中で過去で最高となった。特に難関私立大学は前年比約2倍の合格者数となった。 <現役及び既卒> 難関国公立大学 3名 <現役> 国公立大学 19名 難関私立大学 194名 中堅私立大学 198名 ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他府県の高専等の訪問と伝達研修の実施を行った。 ◎ <p>イ・参加者 30時間 49名 100時間 38名 ◎</p>